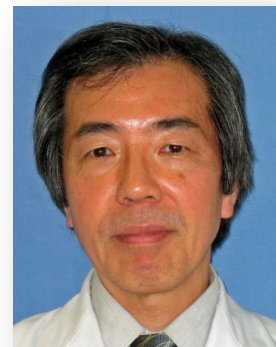




新年あけましておめでとうございます。
本年も神戸掖済会病院をよろしく申し上げます。

本年は医療の診療報酬と介護の診療報酬のダブル改定が4月に行われます。少子高齢化と人口減少の二重苦を抱える我が国の医療介護の今後の進路を指し示すような立派な改定であればよいのですが、最近の改定はいつも、小手先の小細工で診療報酬を下げるようなものばかりで、根本的な制度設計がされる必要を実感します。

さて、昨年来お騒がせしておりましたが当院の小児科は今年の3月いっぱいをもって閉科させていただきますこととなりました。垂水区に移転以来、小児科を維持してきたのですが、ついに閉じざるを得なくなりました。多大なご迷惑をおかけすることにお詫びを申し上げるとともに、長年のご利用に深く感謝いたします。産婦人科と小児科は閉じさせていただきましたが、当院は今後の医療需要を見据え、地域の先生方と連携して垂水区の医療を堅持する方向で今年も邁進する覚悟です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 島津 敬



内科	外科	脳外科	救急科・麻酔科
島津 敬	安田 青兒	野垣 秀和	馬屋原 拓
林 秀幸	大鶴 實	中嶋 千也	福岡 良佑
近藤 天韻	川崎 靖仁	富永 貴志	西山 淳二
深水 英昭	東野 健	宮田 至朗	牛尾 和弘
橋本 学	石井 孝明	駒井 崇紀	片山 智博
池尾 光一	原 尚志		
		皮膚科	
循環器内科	形成・血管外科	佐々木 祥人	放射線科
藤 久和	清水 和輝	三木 康子	池田 幸央
半田 充輝	渋谷 卓	高橋 和嘉子	
小谷 健			研修医
中ノ瀬 晃一	整形外科	泌尿器科	利田 征允
林 濟亨	藤本 眞弘	宮崎 治郎	濱田 絵未里
西谷 伸吾	町田 明敏		
	木澤 卓嗣	眼科	
小児科	小橋 潤己	周 允元	
村上 龍助	若松 透	八木 淳子	
山岡 利佳	洪 洋熹	古川 達也	
山内 裕美子			
松尾 希世美			

本年も宜しくお願ひ申し上げます



患者サポートセンター 開設6か月

副センター長

- ・藤 久和
(部長兼任)
- ・馬屋原 拓
(部長代理兼任)

センター長

- ・大鶴 実
(副院長兼任)

統括師長

- ・緒方 由美

当院では平成29年6月1日より、これまで分散しておりました患者サービス部門を1カ所で受けられるように『患者サポートセンター』を1階に開設致しました。

スムーズな入退院管理と早期からの退院支援を強化し、多職種の協働を通して

地域医療
連携部門

情報交換
協同支援

退院支援
部門

患者相談
窓口部門

の業務改善や職種間の相互理解を深めることにより、患者様満足度の向上を目指すことが目的です。

『患者サポートセンター』は、病院の都合で患者様や家族の方にいろいろな窓口へ移動して頂くのではなく、退院支援部門、地域医療連携部門、医療相談部門などを1カ所に集め、職種横断的に対応する部門です。

オープン6ヶ月で見えてきた課題は、

- 【1】組織が大きくなり専門分化するなかで、病院機能全体を理解しているスタッフが少なく、患者様のニーズに合わせた対応が難しいこと。
- 【2】入院時から、退院を見据えた早期介入の大切さ。
- 【3】クリニカルパスの活用など多職種チームによる標準化された対応の必要性。

以上のように多職種がそれぞれの専門性を発揮しつつ、一つの大きなチームとして患者様サービスの向上を図る取り組みが大切です。

退院支援部門（ベットコントロール等）で聴取した情報を連携部門とも共有し、早期から退院支援に着手できることは患者様にとっても大きなメリットだと思います。

病棟へ頻繁に出向いてカンファレンスにも積極的に参加し、MSW（Medical Social Worker）とも情報を共有しながら入院早期の転退院の調整に尽力します。

近年、入院患者様の高齢化も進み、在宅復帰に時間を要するケースが増加する傾向にあります。患者数が増える冬場などは時として、予定入院の受け入れさえ困難になることもあり、空床の確保等は病院本来の機能（急性期医療）を維持していく上で重要になります。

一方で、かかりつけ医など他施設からの患者様紹介への対応など、前方連携を主に担っているのが、地域医療連携部門です。紹介患者様の予約取得、患者データの入力、診療情報提供書や資料の電子カルテへの取り込みなどを行い、退院支援部門との両輪で、地域医療連携機能を支えています。

患者様の抱える社会的・経済的問題を早期に把握して必要な対策を講じていく上で欠かせないのがMSWの存在です。

家族との面接や地域のケアマネージャーからの情報提供を踏まえて、対象患者様を抽出し介入しています。

また、自宅退院の場合は、ケアマネージャーなど在宅スタッフと密に連携するほか、継続的な支援に繋げていきます。

『患者サポートセンター』開設後6ヶ月携わり、あらためて医師・看護師・メディカルスタッフ・MSW・事務職員の役割が、病院にとっていかに大きいものか知りました。

職種間の立場や価値観の違いを認識しつつ、互いに尊重し合いながら、患者様の目線でサービスの提供のあり方を共有していくことが、『患者サポートセンター』の役割だと考えています。

皆様のご利用をお待ちしております。

(センター長 大鶴 実)





統括

このたび平成30年1月1日付で患者サポートセンター統括師長として配属されました。

患者サポートセンターでは、地域医療連携部門（事務）・退院支援部門（看護師長・MSW）・患者相談窓口（事務）部門の調整を担うことになり、身の引き締まる思いがいたします。

住み慣れた地域での医療・介護を受けられるシステム（地域包括ケア）の中で『ときどき入院、ほぼ在宅』を目指すために、地域と病院の医療・看護連携や多職種連携による早期からの生活支援が必要となってきます。地域と病院でそれぞれの職種が交流し、face to face の関係を持つことで、患者様にとってよりよい医療、地域の生活目線での医療・看護が提供できればいいと思います。

病棟看護師は患者様の退院後の生活を見据えた看護が必要ですが、病院完結型の思考がまだまだ強く、退院の話がでてから「在宅は無理」と判断しがちです。退院先が医療機関ではなく、在宅へ選択できるよう社会保障制度に関することを学ぶことも課題です。

また、病院から施設、在宅に送る情報提供用紙においても患者様の全体像が把握しにくい形式となっています。療養の場によって情報の優先度も違うので、次のケア提供者にとって必要な情報が提供できるように情報提供用紙の内容充実、質向上においても課題としています。そのために職場を超えたネットワークを構築し、患者様にとってどのような情報提供が必要なのか意見交換していくことも重要であると考えます。

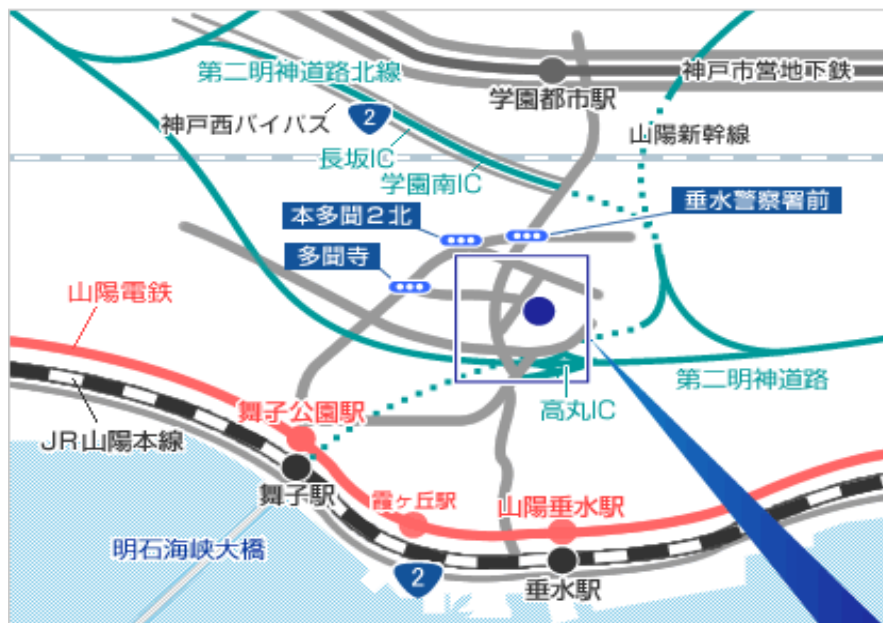
病院の中だけのケアにとどまらず、必要な人に必要なケアが届られる体制を構築することが求められています。

病院と在宅との役割は違っても、患者様の健康を守るという目標は同じです。それぞれの役割を信頼して、連携をとっていきたいと考えています。そうすることで患者様にとって安全で安心な在宅療養に近づけるようにしていきたいです。

不慣れな部分もたくさんありますが、私の責務が果たせるよう努力してまいります。どうぞ指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（統括師長 緒方 由美）





周辺図 ▶



【地下鉄学園都市駅から】山陽バス・神戸市バス 約12分

【地下鉄名谷から】山陽バス 約20分

【JR垂水駅から】山陽バス・神戸市バス 約20分



〒655-0004
 神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号
 TEL：078-781-7811（代表）
 FAX：078-781-1511
<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>